

Title	企業が持続的成長をするために必要なことは何か-企業スポーツの視点から-考察-
Sub Title	
Author	阿久根, 潤(Akune, Jiyun) 小幡, 績
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	2009
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 2009年度経営学 第2392号 連絡が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00002009-2392

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

論文要旨

所属ゼミ	小幡 研究会	学籍番号	80830031	氏名	阿久根 潤
<p>(論文題名)</p> <p style="text-align: center;">企業が持続的成長をするために必要なことは何か —企業スポーツの視点から— 考察—</p>					
<p>(内容の要旨)</p> <p>本論文は、企業スポーツの所有の本来目的を確認し、企業が持続的成長を果たすために何が必要か、という問題意識に対して事例研究を行ったものである。</p> <p>2009 年に入り、企業スポーツを休廃部する企業が増加した。もともと企業スポーツとは、従業員のレクリエーションとして、一体感醸成のために設けられたものである。企業スポーツは、時代を経るにつれ、広告宣伝やCSRといった社会貢献活動とその役目を変化させていった。企業スポーツは、企業にとって様々な役目を果たしている。しかし、昨今の企業スポーツに対する風当たりは厳しい。風当たりの厳しさは、企業スポーツ自体、費用対効果で表すことができないことにその原因はある。特に、企業スポーツの本来目的である、「一体感の醸成」を図る指標はどこにも存在しない。しかし、企業にとって、「一体感の醸成」といった定量化できないものにこそ、持続的成長をする上で重要なのではないだろうか。</p> <p>この問題意識を解明する上で、持続的成長をするためには長期的投資が必要であると仮定した。そこで、仮説を「企業スポーツを所有する企業は、短期的利益より、長期的投資を好む」とし、事例研究を行い、その傾向を見る。長期的投資の評価軸としては、①:研究開発費投資金額、②:新卒(大卒)採用人数の2つの評価軸において、安定しているかで、長期的投資を好むか好まざるかを図る。</p> <p>仮説を検証する上で、事例研究対象企業の抽出方法としては、①:日本の企業スポーツチームが多く集まっている、「日本トップリーグ連携機構」に所属しており、②:企業チームで、かつ③:東証一部上場の製造業 37社の中から、日本の代表的産業である、自動車産業と電機機器業の2業界に絞る。同時に、2業界の中でも、企業スポーツ継続年数(企業スポーツに投資をしている年数)が長い企業を抽出する。</p> <p>第1章で研究背景と問題意識、さらに本研究のねらいを明確にする。第2章では、企業スポーツの定義、歴史、効用をまとめた上で、企業スポーツの価値を示す。第3章で仮説を設定し、第4章で仮説検証方法を明記し、事例研究をベースに研究を行う。第5章で事例研究の結果を受けて、本研究の成果と、今後の課題を明確にする。</p>					